

**製品名: IL-10 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21258**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:21kD;Observed MW:21kD

**抗原情報**

遺伝子名	IL10
別名	IL10;Interleukin-10;IL-10;Cytokine synthesis inhibitory factor;CSIF
遺伝子 ID	3586.0
SwissProt ID	P22301
免疫原	ヒト IL-10 の合成ペプチド

**背景**

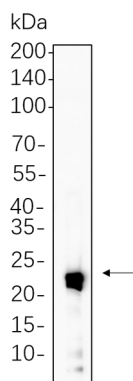
細胞局在: 分泌型。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、主に単球によって産生され、リンパ球によっても少量産生されるサイトカインである。このサイトカインは免疫調節および炎症において多面的な作用を有する。Th1 サイトカイン、MHC クラス II

抗原、およびマクロファージ上の共刺激分子の発現をダウンレギュレーションする。また、B細胞の生存、増殖、および抗体産生を促進する。このサイトカインはNF- $\kappa$ Bの活性を阻害し、JAK-STATシグナル伝達経路の調節に関与する。マウスを用いたノックアウト研究では、このサイトカインが腸管における重要な免疫調節因子として機能することが示唆されている。この遺伝子の変異は、HIV-1感染および関節リウマチに対する感受性の上昇と関連している。[RefSeq提供、2011年5月]

## 研究分野

-

## 画像データ



HL-60細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、メンブレンをIL-10ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でプロットした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。